

関西国際空港の強化に向けた要望書

平成28年9月

関西国際空港全体構想促進協議会

関西国際空港は、昨年度の発着回数が16.9万回、旅客数が2,406万人と開港以来最高を記録しました。国際線の外国人旅客数は1,100万人に達し、首都圏空港とともに我が国の航空需要を支える重要な役割を担っています。

国際情勢に不透明感が見られる中で、これからも我が国が持続的成長を遂げていくためには、国土形成の上からも関西圏の都市機能と魅力を高め、発展著しいアジアをはじめとする諸外国の人やモノの流れを一段と活性化し、取り込んでいくことが重要です。

折しも、国においては、2020年に訪日外国人を4,000万人とする観光立国の目標が掲げられ、2019年の「ラグビーワールドカップ」、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」、2021年の「関西ワールドマスタースゲームズ」など、内外の交流が活発になる国際行事が目白押しです。これらのことから、空港機能の強化やソフト・ハード両面での訪日外国人の受入環境の整備は喫緊の課題です。

関西国際空港においては、今年4月から関西エアポート株式会社による運営が開始されました。今後、環境対策や地域連携を図りつつ、民間の経営感覚を活かした、利用者満足度の高い空港づくりが期待されています。

地元といたしましても、自治体や航空会社等と連携したインバウンド促進や関西の物産・観光情報の発信強化により、観光立国の実現に寄与するとともに、空港と地域の共存共栄の下、我が国初のコンセッションによる空港運営が成功するよう、関係者と連携し、できる限りの協力を進めてまいります。

国におかれましては、関西国際空港が、関西そして我が国の成長を担うアジアのゲートウェイ空港として機能が強化され一層発展するよう、適切な権限のもと、必要な施策や措置を講じられることを下記のとおり要望いたします。

記

1. インバウンドの急増により、国内でも混雑が著しい関西国際空港では、待ち時間の短縮、円滑かつ快適な旅客動線の確保など、出入国時の受入環境の改善は急務である。今後、第2ターミナルの拡張等により、外国人旅客の増加がさらに見込まれることから、入国審査官等

の増員、バイオカートの円滑な運用に必要な予算を確保するなど、所要の措置を講じられたい。

- 2．観光立国の実現に向け、訪日需要が旺盛な国々に対して、観光ビザの適切な緩和推進を図られたい。また、訪日外国人の観光、宿泊等の受入環境の整備・強化を図られたい。
- 3．関西国際空港のアクセスの利便性や速達性の向上に向け、なにわ筋線の早期具体化をはじめとする取組みに対し、積極的な支援を行うとともに、高速道路ミッシングリンクの解消についても着実に推進されたい。
- 4．増加が著しいインバウンド需要に対応し、かつ、24時間完全運用の貨物ハブ機能を十全に発揮するため、人材確保が困難となりつつある空港ハンドリング業務に関し、安全面での十分な配慮のもと、国際空港間での人員応援手続きの簡素化、車両運転許可に要するライセンス条件の実態に即した見直しなど、必要な措置を講じられたい。
- 5．関西国際空港が、我が国を代表する国際拠点空港として日本経済の活性化にも寄与できるよう、空港機能の強化に向け、所要の措置を講じられたい。また、開港以来築かれてきた空港と国、地元との良好な関係が引き続き維持されるよう努められたい。

平成28年9月6日

関西国際空港全体構想促進協議会

会長	(公社)関西経済連合会会長	森 詳 介
副会長	大阪府知事	松井 一郎
〃	兵庫県知事	井戸 敏三
〃	和歌山県知事	仁坂 吉伸
〃	大阪市長	吉村 洋文
〃	堺市長	竹山 修身
〃	神戸市長	久元 喜造
〃	大阪商工会議所会頭	尾崎 裕